

●あとがき

風

雲急なる新日本製鉄（当時・八幡製鉄）の君津進出によって、わが郷土・坂田地区一帯はまさに驚異というべき激しい変貌を遂げた。坂田土地区画整理組合では、理事長坂井五郎ほか役員の総意で、かねて組合事業終了時に記念として残すいくつかの事業を考え、その一つとしてこの『坂田郷土誌』の発刊を企画した。昭和五十三年春から編集委員が選任され、これらが資料収集に乗り出した。各委員は自分たちの手で後世に残る郷土誌を作る喜びに燃え、多忙な日常のかたわら馴れない作業に懸命にあたった。

菱田忠義先生のご指導のもとに、郷土誌の構想を練り、担当部門を決め、また委員一同で木更津市立図書館、県立上総博物館を訪ねてさまざまなお教示をいただき、基本的な勉強からの出発であった。千葉県立中央図書館では文化文政期に坂田村出身の産婦人科医として高名であった大牧周西先生の遺著『産科新論』上下二冊を眼のあたりに見ることができ、あらたな感慨にひたった。

林

の中を、街の中を身軽に飛び回って貴重な資料や写真を探し出したのは井祐穂であった。齊藤優は炎暑の中を部落中の墓地に日参して墓誌の記録に余念がなかった。秋元晋と有野雅二は古老たちを訪ね歩いて、かつての坂田の海のありさまに耳を傾け、資料をあさった。編集委員の中でもっとも若い色部司二は、日々変貌を遂げる商工会のとりまとめに奔走するかたわら、昔なつかしい駄菓子屋や酒屋の取材にあたっては、その資料の少なさに時折り留息を吐いていた。

火

のような情熱家は坂井俊雄であったが、業なかばに他界、その若すぎたサヨナラは残念でならない。平野與志雄は、坂田の行政（地方自治）の歩みという得意の残念で、分野で、しつこいほど綿密な調査に取り組んで、なみなみならぬ努力を発揮した。『坂田郷土誌』をつくろうと積極的に提案した男であっただけに、その責任感の強さには、あらためて感心させられた次第だ。齊藤保は、農協組合長として、これほど超多忙な人もいないだろうと思っただけが、見事にその責を果たした。

いずれも歴史とか資料の収集などについてはズブの素人にすぎない。しかし、いったん飛びついた仕事はとことん追求するという「執念」には恐れいった。そんな編集委員の活動を実に三年にわたってスムーズに運営してくれたのが廣部廣蔵である。廣部の細心の配慮がなかったらば、果たして今日が迎えられたかどうか、それを思うと感謝の気持でいっぱいだ。

最後に、坂井五郎は、坂田土地区画整理組合の理事長として、区画整理事業の推進に全力投球する一方、編集委員長としての重責を引き受け、編集委員をいつも温い心で叱咤激励してくれた。また、達者な筆で本書の題字を揮毫し、この郷土誌に色を添えてくれた。

山

の色は水々しく青く、蟬しぐれの季節がまたやってきた。この『坂田郷土誌』は特別に担当者を決めてのものではない。取材・資料収集については、一応の持ち場は分担したが、どの章も編集委員全員の議論の中から組み立てられていった。古文書の内容、古い写真などはできるだけ多く掲載した。さらに、この編さんにあたっては、『君津郡誌』『君津町誌』のほか、多くの参考文献を活用させていただいた。ひとつひとつ出所を明らかにするのが本筋だが、煩雑をはぶく意味で省略させていただいた。感謝を込めてご了承を乞う。

また、本書の刊行にあたっては、編集、制作、印刷の全般にわたって、東洋経済新報社事業出版部の方々のお世話になった。編集会議の都度、坂田を訪れては、慣れない原稿書きに辛苦する編集委員を励まし、さまざまな助言を与えてくれた同社のスタッフの方々に深甚の謝意を表したい。

『坂田郷土誌』の編さんに取り組んだ三年余りは、編集委員一同にとって『風林火山』の年月であったといえよう。かつては海苔養殖業に青春をかけ、あるいは土地区画整理事業を通じて新しい町づくりに励んできたわれわれにとって、郷土誌の編さんは少々荷が重すぎたきらいがないでもない。あるいは「めくら蛇に怖じず」のそしりを免れないかもしれないが、この『郷土誌』が郷土の後人にいささかなりとも役立つことができれば、それは編集委員一同のひそかな喜びである。

(坂井清治)

昭和五十六年十月



編集委員 前列左より齊藤保、坂井清治、菱田忠義先生、坂井五郎、坂井俊雄、平野與志雄。
後列左より色部晋司、齊藤優、有野雅二、井祐稔、秋元晋、廣部廣蔵。

“	“	“	“	“	“	“	“	“	編	編	編
故									集	集	集
坂	色	秋	廣	平	齊	齊	井	有	員	員	員
井	部	元	部	野	藤	藤	祐	野	長	長	長
俊	晋		廣	與				雅	坂	坂	坂
雄	司	晋	蔵	志	優	保	稔	二	井	井	井
				雄					清	五	五
									治	郎	郎

坂田郷土誌

昭和五十六年十一月十日発行

編集 ● 坂田土地区画整理組合郷土誌編纂委員会
発行 ● 坂田土地区画整理組合

〒一九九一―一 千葉県君津市坂田一五八五番地
電話 ○四三九一五二―〇〇〇五

制作 ● 東洋経済新報社企画制作局事業出版部
印刷製本 ● 株式会社東京印書館

© PRINTED IN JAPAN

(非売品)

